

Table with 2 main columns: 保育理念 and 保育方針. 保育理念 includes 'にんげん力' and '育てます'. 保育方針 includes '①センス・オブ・ワンダー' and '②人対人コミュニケーション'.

Table with 4 columns: 園の目標, 特色ある保育, and 裏面参照. 園の目標 is '大人も子どもも主体性を大切にたくさんやってみたいがあふれるおうち〜楽しい・おもしろいを見つけよう〜'.

Table with 2 main columns: 保育に関する基本原則 and 保育所の社会的責任. 保育に関する基本原則 focuses on children's well-being. 保育所の社会的責任 lists various safety and support protocols.

Table with 6 columns: 地域の実態に即した事業, 保育の方法/環境, 保育に関して留意すべき事項, 年間計画プロポーザル制度, 保育時間, 主な園行事. Details various activities and schedules.

保育のねらい及び内容

Main table with 7 columns for age groups: 乳児, 1歳児, 2歳児, 3歳児, 4歳児, 5歳児. Each column details developmental goals across categories: 生命の保持, 情緒の安定, 健康, 人間関係, 環境, 言葉, 表現.

Summary table mapping age groups to specific content categories like 【健康】ア, 【人間関係】イ, etc.

Table with 4 columns: 職員の質の向上研修計画, 健康支援, 食育の推進, 環境・衛生管理. Details staff training, health support, nutrition, and safety measures.

Table with 2 main columns: 環境・衛生管理並びに安全管理 and 災害への備え. Details safety protocols, disaster preparedness, and hygiene management.

Table with 2 main columns: 子育て支援 and 自己評価. Details support for parents and self-evaluation methods.

特色ある教育と保育 私たちが育てる6つの力

① ケガをしない強い体を育てる

裸足保育	足指で地面を捉える力を育て、「歩く・走る・跳ぶ・とび降りる・よじ登る横や後ろに動く」ができるようにし、運動感覚を育てることを目的とする
木登り	色々な遊びの中で様々な発見をし、十分に体を動かすために、また、“自分で飛び降りることができる高さ”を認識するために、園庭には木登り用の樹を配置する。
座禅	一日中外で動き回るからこそ、毎朝1分間の座禅を。一日の始まりに「静」の時間を設けている。
雑巾がけ	転んでも自分の体を支えることができる徒手力を身に付けるため、また、自分が暮らす場所を自分できれいにするために毎日雑巾がけを行なう。
さくらさくらんぼリズム体操	身体機能の発達を促すため、園児の体調を確認するため、また、歌をたくさん知っている子を育てるために、毎日『さくらさくらんぼリズム体操』を行い、『うた』を唄う。
長距離散歩	遊び・労働・食事・休息のサイクルを大切に。午前中は目一杯太陽の光を浴びて体を動かし、お腹一杯昼食を食べ、休息し、午後の活動につなげてゆけるよう、毎朝9時に散歩へ出発する。4月からは徐々に距離を伸ばし、11～12月を目安に、2歳児は往復4km、4～5歳児は往復10kmを歩けるようになることを目指す。

② 自分でできることを自分でする

畑仕事	毎日、午前中は、畑仕事を行う。耕し・苗植え・水やり・間引き・収穫を行う他、自分たちで育てたものを料理したり、ケチャップ・梅干・たくあんなどを作ったりする。 ※ヤギ飼育園はヤギ糞を発酵させて作った肥料を畑に混ぜ込み使用する。
給食米の自給自足	子どもたちに美味しいものを生み出すための労働を経験させたい、大自然の中で思い切り遊ばせたい、大地の恵みの美味しさを知って欲しい…そんな思いから農業生産法人を設立し、新潟県魚沼市に水田を確保し、ライスセンターを建設。15年かかってようやく、植え付けから、収穫、精米、発送までの給食米の完全自給自足を実現した。
縁側給食	毎日の昼食・おやつを縁側で食べる。家庭と同じように、調理員・保育士・施設長・スタッフは、一緒に食卓を囲み、子どもと一緒に食事する。一緒に食べたい大きな子のところへ行ったり、一緒に食べたい小さな子を誘ったりして、異年齢で食事を。食事は、大人が盛りつけせず、子ども自らが行き、まだできない子には、できる子が手伝う。
自分たちで食事の盛り付け	小さな子の食事を盛り付けるのは、大きな子の役割。保育士が担当を決めることはしない。子どもたちは、一緒に仕事する中で、相手を頼り、主張し、意見を言い合い、相手のやり方を受け入れ、物事を進めてゆく場面を経験する。頼りあい、ぶつかりあい、教えあう教育を実践する。

③ すべての人との関わりから判断・行動を身につける

異年齢保育	年齢が違う子同士、すべての子が、やってみたいこと、思い通りにならないこと、すべて実際に経験するために、0～5歳児が共に暮らし、頼りあい、ぶつかりあい、教え合う。大きい子が中心になって、遊ぶ相手・場所・内容を子ども自らが選択し、自分たちで大きな時間割を作り、見通しを立てて行動する。0～1歳児については、愛着形成と個々の発達支援を大切に、学年別に分けるのではなく、歩行の確立など、発達段階に合わせた保育を行う。
インクルーシブ保育	障害の有無で分ける保育ではなく、異年齢保育と同じように、すべての子が、頼りあい、ぶつかりあい、教え合うインクルーシブ保育を実践する。支援が必要な子どもに担当者を付ける保育は行わず、スタッフ全員が子どもの健康状態や発達状態を理解し、やりたいことを自ら選んでやってみることができるよう、環境を構成し、援助する。
銭湯でお風呂の日	保育士は保護者に近い存在になるために、月1回、保育士と3～5歳児と一緒に契約銭湯へ出かけ、裸の付き合いをする。また、法人が大切にしている地域交流の一つとして位置づけている。
商店街ツアー	「地域交流・様々な仕事を目にする・地域の大人と目を見て話す」を目的として、週1回、サービス・金融・流通・製造など、地域の様々なお店・会社を訪問する。
青空保育	地域子育て支援の一環として、毎月1回、同じ公園で出前保育を行う。地域の親子と保育士・園児が同じ時間・同じ空間を共有する。

④ 活動を選択し、自分で考えて行動する

火と関わる	火を使って何かを焼いたり、体を温めたり、日常的に火に触れることで、正しい火の扱い方を知るように導く。また、燃えやすい木と風上風下の違いなど、火に関わりながら自然の様々な事象に自ら気づき、考える力を養う。
水と関わる	実際に触れることで、水の形の変化・遊び方を子どもたちが自分で考えられるように、園庭には雨水タンクを置き、いつでも自由に水を使えるようにする。乳児のころからたっぴりと水に関わる環境を作ることで、土に関わるどろんこ遊びへと興味をひろげてゆく。園庭が無い園では、雨の日散歩や川遊びなど、日々の生活・遊びの中で水と関わる機会を設ける。
土と関わる	スコップとショベル、ジョーロなどの道具を適切に配置し、子どもたち自身が道具と土と水を使って、遊び方や遊ぶ相手を選んだり、土が変化してゆく様子を探求したりなど、自分で考えてやってみる力を育む。
焚き火保育	冬でも元気に戸外で遊べるように焚き火をする。園庭の焚き火を囲んで子どもたちがおしゃべりしながら体を温めたり、お茶を沸かして友だちやその保護者に振舞ったり、野菜やウィンナーを焼いておやつにしたり、豚汁を作ってみたりする。園庭が無い・火が扱えないという場合は、焚き火ができる公園に出かける。

⑤ 生死を知る

ヤギ・鶏・生き物の世話	ヤギ・鶏・その他生き物の糞の始末・小屋や水槽の掃除をする。また、卵拾い、畑の土の中の幼虫、ザリガニ、ドジョウなどの生き物に触れることができる環境を用意する。※ヤギ・鶏を飼育している園は、毎朝、ホウキとチリトリを使って、ヤギ小屋・鶏小屋の掃除を行い、糞を堆肥置き場へ運ぶ。
生死教育	子どもたちは、毎朝、生き物(ヤギ・鶏・その他)の糞を始末し、小屋・水槽を掃除して、餌を与える。その中で、命あるものは、毎日世話をしなくては生きていけないということを、経験で知ってゆく。園生活の中で死に直面したり、ヤギの生まれる瞬間に立ち会ったりすることもある。すべて、命の重みを知る必要な体験となる。
食材と食の循環を知る	普段から『命あるものを食している』と言うことを経験から教えるために、保育士、専門士、調理員らと子どもが一緒に、魚をさばいて焼いたり食べたり、鶏を絞めて焼いて食べたり…という「命をいただく経験」を必要だと考え、実際に行う。

⑥ 感じたこと・考えたことを表現する

言葉で表現する	やりたいこと・してほしいこと・わからないことをたずねたり、言葉で表現できるよう、みんなで話し合ったり、相談したり、みんなの前で発表する時間を保育計画に計画的に盛り込む。
描く・つくる	生活の中で感じたこと・心を動かされたこと・目にした美しいものを表現し、自由に描いたり、つくったりする時間を保育計画に計画的に盛り込む。また、普段の遊び・生活の中でいつでも自由に表現できるよう、環境を設定する。

就学前教育

3～5歳児は、各週1回、それぞれ30分間ずつ「のびのび教室」「体操指導」「音楽指導」を行っている。

のびのび教室	鉛筆の持ち方・点と線・文字と数字・足し算などを公文式の教材を使用し、一斉学習ではなく、個人ごとのペースに合わせて進めてゆく。
体操指導	個々の発達段階に合わせて自分の体を守る力と基礎体力を養う支援を行う。徒手運動からスタートし、マット運動・鉄棒・跳び箱・縄跳びの指導を行う。
音楽指導	歌や合奏を楽しむことからスタートし、小学校入学に向けてピアノの指導も行う。 注)全学年、日頃から、歌をたくさん唄い、歌を知っている子を育てる。